社会福祉法人 光寿会

2023年12月15日（1）

まんさく

第295号
発　行
特別養護老人ホーム光寿苑
まんさく編集委員会
和賀郡西和賀町湯本30-76-1
TEL 0197－84－2526
koujhu@fancy.ocn.ne.jp
題字　元理事長 太田祖電

西和賀町チャリティーショーに介護おとぼけ座が登場♪ ≪12月3日≫

小中高生に介護の魅力を伝えるため結成された介護劇団が、銀河ホールの舞台に！〔関連：4頁〕

２９５号もくじ

☆２～３頁★
＊上半期検証と下半期目標
（生活課、介護･湯の町地区）

☆４頁★
＊光寿苑報恩講参拝＆御斎
＊介護おとぼけ座in西和賀高校
＊身体拘束を考える研修

☆５頁★
＊想 … 災害を捉える

☆６頁★
＊地域密着型事業紹介
＊寄附･寄贈･訪問等紹介

☆７頁★
＊「共生の場」へようこそ！
＊社会福祉永年勤続表彰　等

☆８頁★
＊「光寿苑の日々」（４コマ漫画）　＊「自然法爾」（お寺さんのお話）　＊「おわりに」

光寿会ホームページは『光寿会 にしわが』で素早く検索できます(^^♪

令和5年度法人キーワードは『活かす』～変更箇所：「丸ゴシック体」～

【生活】「①生活・ケアマネ部門」 ☆細川るみ子☆

法人キーワード	令和5年度共通のキーワードは『活かす』	
令和5年度上半期のイメージ像 テーマ	生活を回復する。	
	目　標　①	目　標　②
理想像 上半期	★生活歴情報を実際のケアに繋げる。 ★コロナクラスターの経験を活かした対応ができる。	★生活課職員・組織が、円滑に運営されるように橋渡し役になる。
具体的な取組み（いつ、何を、どのように）	①感染対策を取りながら、お年寄りのゆかりの場所や友人に会いに行けるようにしていく。 ②ご家族が居室や苑内に入られた際、生活を感じられるようにしていく。 ⇒感染対策をとった中で、居室での面会ができる。 ③お年寄りの機能低下防止や、離床をして交流の機会が増えるようはたらきかける。	①新人職員育成のためのフォローアップ ②各部署の職員に積極的に話を聴いていく。

↓

令和5年度上半期検証【テーマ】	少しずつ回復して来ているが、お年寄り・家族の希望される状態までにはできていない。
令和5年度上半期検証【各目標】	目標① ※町内の感染状況を確認しながら、外出の対応をする事ができた。 ※もう少し山菜採りの計画を立てるなど、外へ出る機会を増やしたかった。 ※居室での面会が難しい中、施設内に入った事がない家族対象に、生活スペースを観て頂く事を進めている。 ※介護技術向上委員会が中心となり、個々に合った離床方法を検討し、周知する事ができた。 目標② ※積極的に話を聴く事ができなかった。 ※各部署の現状をより知るために話を聴き、連携できる流れを作っていきたい。

↓

令和5年度下半期のイメージ像 テーマ	生活を回復する。	
	目　標　①	目　標　②
理想像 下半期	★生活歴情報を実際のケアに繋げる。 ★コロナクラスターの経験を活かした対応ができる。	★生活課職員・組織が、円滑に運営されるように橋渡し役になる。
具体的な取組み（いつ、何を、どのように）	①感染対策を取りながら、お年寄りのゆかりの場所や友人に会いに行けるようにしていく。 ②ご家族が居室や苑内に入られた際、生活を感じられるようにしていく。 ⇒感染対策をとった中で、居室での面会ができる。 ③お年寄りの機能低下防止や、離床をして交流の機会が増えるようはたらきかける。	①新人職員育成のためのフォローアップ ②各部署の職員に積極的に話を聴いていく。 ③ケアを検討する際には、各専門職に意見を求めて、多職種で考えて行けるように働きかける。

上半期を振返って、下半期の目標再設定です

【生活】「④介護部門…湯の町地区」　☆高橋　舞☆

法人キーワード	令和５年度共通のキーワードは『活かす』

令和5年度上半期のイメージ像			
	テーマ	″知り″ 得たものを ″活かす″	
	上半期理想像	目　標　①	目　標　②
		★お年寄りの残存機能を活かしたケア	★介護技術を学び、活かし、安全なケアを。
	具体的な取組み（いつ、何を、どのように）	①移乗・移動・食事等の介助の際、お年寄り一人一人の動きに合わせたケアをユニットで共有 ②ご家族との連絡を密に行い、知り得た情報を活かし、お年寄りが安心できる生活の場を創る。	①介助に不安を感じた際は、ユニットで相談・共有していく。 ②ユニットで解決が難しい場合は、介護技術向上委員会に相談・助言を求める。

↓

令和5年度上半期検証【テーマ】	※お年寄りの可動域や残存機能を知り、ユニット職員で共有した。また、それを活かせるように職員同士で教え合い、介護技術の向上は出来てきた。 ※ご家族への電話連絡は定期的に行えていたが、お年寄りの昔の話を聴いていくまでには至っていなかったため、下半期はその事も踏まえたテーマとしたい。
令和５年度上半期検証【各目標】	目標① ①食事の際のポジショニングやトイレ介助方法等、本人にとって安全な方法での介助を共有・統一できた。 ②電話での連絡は出来ているが、昔のお話をお聴きするまでには至っていない。現在、面会時間に制限あるため、電話での交流を増やすよう努める。 目標② ①ミーティングの際や気になった時に、相談し合える環境になっている。申送りノートの記入や、お年寄りによっては個別のポジショニング説明を作成する事ができた。 ②介助による事故が起きてしまい、事故防止対策委員会や介護技術向上委員会に相談・助言を頂いている。

↓

令和5年度下半期のイメージ像			
	テーマ	活かしたケア	
	下半期理想像	目　標　①	目　標　②
		★お年寄りの残存機能を活かしたケア	★職員一人一人の得手を活かしたケア
	具体的な取組み（いつ、何を、どのように）	①お年寄りの状態変化や訴えに応じて、職員間で相談・検討をする。 ②ご家族に記入して頂く生活歴を活かし、状態報告と共に話題としてお話を聴いていく。	①介助の統一と共有は基本としながらも、職員個人の得意な事を活かし、お年寄りの暮らしを豊かに！ ②職員数が不足しているユニットだからこそ、職員個々が自覚を持ち、より協力していく。

光寿苑報恩講参拝＆御斎 11月27日

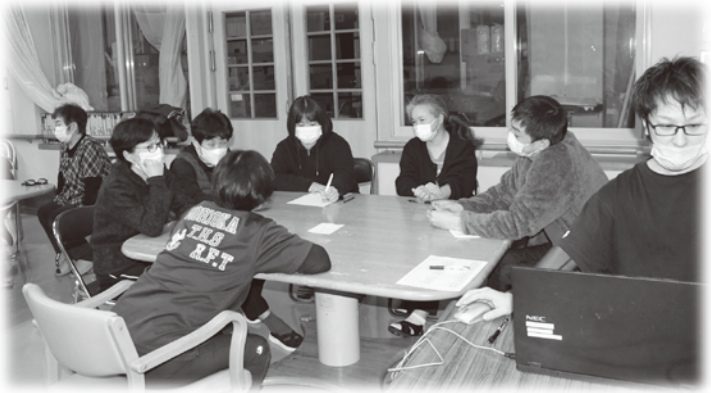
職員特製御斎『精進料理』

11月28日 介護おとぼけ座in西和賀高校

若い世代に『福祉・介護の仕事の魅力を伝えたい』というテーマをもって、実話に基づいたお笑い寸劇を手掛けて４年目。今年度も看取り場面の劇などを引っ提げて、沢内小学校高学年・湯田小学校４年生、そして西和賀高校1年生の前で、思いを伝えて参りました。〔関連記事：１頁〕

【R5年度メンバー：グループホーム笹の木、ワークステーション湯田沢内、西和賀町社会福祉協議会、特養ぶなの園、特養光寿苑＆小規模多機能ホームひなたぼっこ、西和賀町役場健康福祉課　　総勢16名】

身体拘束を考える研修② 11月27～28日



今年度２回目の身体拘束を考える研修会は、介護現場での悪いケアの例を視聴し、その後、グループ毎にテーマ別にディスカッションする形式で開催。テーマは、「離床介助」「ロビーにて」「余暇時間」「食事介助」「移動」と分かれており、其々の問題点と対応策を重点的にディスカッションできた事で、より深い研修となった。

普段の自分を見つめる良き機会にもなった。

想…災害を捉える 宮城県から発信します③

『災害を縁に歩み出した寺』 白木澤 琴 氏

3回目となります宮城県の僧侶・白木澤琴さんよりご執筆を頂きました。今回は、琴さんのお寺の源流に根づく歴史、その続きをご覧いただきます。

▽災害を縁に歩み出した寺△

前回ご紹介した慶念坊が、お念仏の教えを布教された宮城県北部。慶念坊の死後、信徒たちが建てたといわれている大柳説教所に、明治26年、一人の青年がやってきました。白木澤大淵（しらきざわだいえん）、28歳。後に玉蓮寺初代となる僧侶です。

大淵は、1866年、現在の岩手県大船渡市三陸町吉浜にある真稱寺に次男として誕生しました。境内の目下には、美しい海が広がる寺です。

布教の志しが篤かった大淵は、先達の勧めもあり、大柳説教所に赴任。掘っ立て小屋同然の茅屋に落胆したといいますが、強い決意を以て布教生活が始まりました。翌年には、正式に「玉蓮寺」となりました。

しかし、その矢先、明治29年、未曽有の三陸大海嘯（おおつなみ）が東北沿岸を襲います。東日本大震災にも匹敵する巨大な津波。約二万人の死者。玉蓮寺と大淵の実家は、その被害を免れましたが、故郷の三陸の地は、一帯がすさまじい惨状となり果てます。親戚の中には全員溺死となり、誰一人のご遺体も見つからなかった家もありました。大淵は故郷への慰問に赴き、海岸にて追悼の読経、慰問談話を行ったとの記録が残っています。

その時の大淵の苦悩は想像に尽びませんが、絶望、無力感、そして、何とかしなければならないという強い責任感に苛まれたのではないかと思うのです。

豊かな自然に囲まれる現在の「玉蓮寺本堂」

三陸大海嘯の直後から、大柳説教所への本堂建立の機運がいよいよ高まりました。宮城の信徒、故郷三陸の人々の協力も得ながら、気仙大工の手によって建設が始まりました。資材の多くは、この三陸の地から寄進され海路で運ばれたといいます。災害により、多くの方が悲しみに暮れ、生活に困窮する中、何か大きな願いを、本堂建立に託してくださったのでしょう。

明治34年、遂に本堂は落成。感謝してもしきれない恩恵を、初代は私たち子孫にこう書き残しています。

▽寺に衣食するもの後世子孫、恩恵を深く謝し一衣一食、皆是仏祖の賜ものと思ひ、門徒の教導を怠らず、寺族一致して報恩感謝の思いに住すべきことを忘るゝことなく、而して当寺を永遠に維持せんことを念願して止まざる処なり△

後、大淵は本堂移転、戦争、地震災害など幾多の苦難に直面しながらも、仏様の教えを聞く「場」を開き続けました。岩手気仙地方の聞法を大切に生きてこられた人々の風土が、苦悩の中でも「聞法の場」を開き続ける後押しになったと思うのです。

大淵は生涯、布教と自らの求道に尽力。93歳で浄土に帰られたのです。

（続）

今月の登録者の方々
15名様です♪

小規模多機能ホーム「ひなたぼっこ」
住宅型有料老人ホーム「湖畔の宿」

いよいよ初積雪でも皆様元気♪「ひなたぼっこの日常」

㊧『壁掛け飾り作り』　㊥『お昼寝明けのひとコマ』　㊨『通いサービスの様子』

第4回『運営推進会議』〔11月17日〕

外部委員8名、職員4名出席

※今回は、外部評価のための現場視察を開催し議論した。

委1 現在、面会における制限はあるか？

職1 現在も、15分の制限を設けています。その中で、お互い手を握る等の接触は可能としております。

委1 先ほど、「かるたL」で盛り上がっていたが、利用者側からの希望に応える等も実際あるのか？

職2 ゲームに限らず、〝今日は良い天気だ、今日はお出掛けしたいな〟等の声が上がったり、〝私はソフトクリーム食べたい〟等声があがります。こちらから声掛けしながら、希望に添えられる範囲で活動しています。

委3 中には〝出掛けたくない〟という利用者はいないものか？

職2 勿論います。トイレが近い理由でお出掛けを遠慮する方もいれば、コロナ感染に敏感の方もいます。その方は無理に誘わず、ひなたぼっこでゆっくり過ごして頂くようにします。

委1 それって大事なこと。利用者皆さんが同じ活動をしなければならない、十把一絡げではないと思う。他に、お風呂を嫌がる方はいるか？

職3 勿論います。そういう方は、自宅でも入らない場合が多く、サービス利用の第一目的は、〝何とか入浴して欲しい〟という家族希望もあります。何とか説得して入浴して頂きます。実際、入った後は、〝あや、良がったあ〜〟という声を頂いています。

おかげさまでした　光寿会へのご支援

寄贈

★＝光寿苑
☆＝ひなたぼっこ

★ 五十嵐 美幸 様〔湯之沢〕
★ 匿名×2名 様〔西和賀町〕
★ おおしま商店 様〔湯 本〕
☆ 髙橋 ちづ子 様〔下 前〕
☆ 髙橋 康文 様〔田 代〕
☆ 佐々木 正 様〔北上市〕
☆ 照井 和江 様〔北上市〕
★☆ 西和賀町婦人連絡協議会 様

訪問

★柏崎 良雄 様〔湯 田〕

面会・外出〔11月1日〜30日〕

【対面面会】 延べ48名（対象入居者21名）

訪問

通いサービス視察（11月17日）
☆ひなたぼっこ運営推進会議委員 … 8名

『共生の場』へようこそ♪

【光寿苑の新しいお仲間ご紹介させてください】

近藤照子 さん
＊西和賀町
＊昭和のお生まれ

髙橋タマ さん
＊西和賀町
＊昭和のお生まれ

真田ツマ さん
＊西和賀町
＊昭和のお生まれ

社会福祉永年勤続表彰者

光寿会を初め、西和賀地域の介護現場を永らく支え続けてくれている高橋ゆきえさんと北島真理さんのお二人が、この度、授与されました。
経歴は『〇〇年(うんじゅうねん)』とシークレットにさせて頂きますが、お年寄りのためになるよう、職員たちの気持ちや技術、知恵を与えてくれた功績に拍手をお願い致します♪
【お二人は表彰式に不参列でしたので、ここで賛辞を贈りました♪】

職員募集中

管理栄養士・調理員
管理栄養士資格、調理師有資格者も無い方も歓迎！

生活相談員・介護支援専門員
社会福祉士または社会福祉主事、介護支援専門員資格

介護職員・事務職員
有資格の方も、無資格でも歓迎！　事務職経験のある方、大歓迎！

善信は「大自然の懐」に抱かれて生きてきたのか。それはよいことであった。

《法然(小説)流人親鸞》

第94回　丸田善明

自然法爾（じねんほうに）

日本浄土教の開祖・法然上人は、承元元年(1207)早春、念仏禁止令によって土佐国へ流罪。10ヶ月に流罪は解かれたが、京に入る事が出来たのは4年半後、建暦元年12月20日の事である。

その日、院の御所の用意した「大谷の禅房」で法然を待っていた天台座主・慈円僧正は、間もなく80歳になる老僧を玄関で迎え、手を執って禅房の仏間に請じ、下座で九拝の礼を執ってこう述べた。

▽法然どの、貴僧の命運を引き回したのは、儂の謀りごとであった。許して下され。

貴僧の立てられた浄土宗は南都北嶺の喉元に突きつけた刃となり、浄土宗排撃の嵐を呼んだ。貴僧を洛都から遠くに放す。これが最良と、儂は踏んだのじゃが…。△

やがて、年明けた1月25日、法然は遷化した。亡くなる10日ほど前、越後の国主代理だった文章博士・日野有範卿が見舞いに訪れた。

▽法然さま。私は善信(後の親鸞)の伯父でござる。善信は今、越後の一丈も降り積もる豪雪の郷に閉じ込められ、師と会うことが適わぬ苦しみの中におります。△

この時、法然の語ったのが冒頭の言葉。

イラスト：1000

コロナ禍と施設入居が重なり5年ぶりとなったお二人の再会。喜びあっていた後の"あの世で会うべし！"の言葉は、ジョーク半分、真理半分と言えるような90代ばっちゃんたちの世界観を創っていく。年を重ねて、この世界観めっちゃイイ！

おわりに

今日12月7日、まんさく〆切に追われている。他にも仕事がいっぱいで、大変、心に余裕がないのだが、去年の同日は違う状況で余裕が皆無に等しかった。そう。施設内コロナクラスターにより、いつ普通の日常が戻ってくるのか!? まだ不確かな中、不安と疲れが極限だった頃である。一年が経つ。

急場を凌いでいる時は、普通の日常を切望して止まなかった曲に、普通の日常をしばらく過ごすと、今度は、〝何か笑える楽しい事ないか〟と、欲張りな心が顔を出す。

▽おわりに△を書く時間があって良かった。ここに向き合いつつ、我が実相を認知し向きあう時…。

※良きも悪きも、私の心が決めている。

光寿会では介護士・看護師・調理師等職員大募集(^^♪ 0197-84-2526